

科目名	日本文化論特講Ⅱ	担当者	ヤマサキ 山崎 マキコ 真紀子	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>明治期から現代までの近現代文学を学ぶことで、豊かな知識を養い、論理的かつ批判的思考力を涵養することを目的とする。講義の中で具体的に読んでいく小説は、書かれた時代を反映し、当時の政治・経済・文化の交錯の中で構築されてきた。小説に用いられている言葉がどのように配置され運用されているのか、また、断片的な出来事がどのような工夫のもとで構成されているのかを省察する。日本近現代小説を緻密かつ分析的に読むことで、他者に言葉でいかに伝えていくか、問題を発見する力を育て、読解した小説の持つ魅力を説明できる力を身につけていくことを目指す。</p>		
到達目標	<p><b>【一般目標 (GIO)】</b> 日本近現代文学の小説に慣れ親しみ、一字一句丁寧に読むことで〈何か〉に気付くことができる。気づいたことの意味を掘り下げて考察し、新たな視点で作品を読むことの面白さを人に伝えることができる。</p> <p><b>【行動目標 (SBOs)】</b> 多種多様な文学作品に触れることで、語彙力を増やし、人に正確かつ分かりやすく伝えるための文章作成ができる。 言葉の配置や文体、比喩を駆使して論理的かつ人を引き付ける文章を書くことができる。</p> <p><b>【準備学修項目と準備学修時間】</b> 準備学修項目：教科書にある小説を三度繰り返し読む。 準備学修時間：50分 なお、1つのレポートに以下の学習時間が必要となる。 教材の学修：15時間    レポート執筆：15時間 レポート推敲学修（教員の添削指導を含む）：5時間    最終稿の完成：10時間</p>		
学修方略 (方法)	<p><b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> ディスカッションを行う。</p> <p><b>【学修方略 (LS)】</b> 先行研究論文を読み、そのうえで自分のオリジナリティの上に立ち、自らの解釈を論理的に説明するレポートを3000字程度で書いて提出する。添削を受けて完成させる。</p>		
スケジュール	<p>前期：7月中旬までに教材1のレポート課題（1）最終稿を提出。 レポート課題（2）については9月中旬までに最終稿を提出。</p> <p>後期：11月中旬までに教材2のレポート課題（1）最終稿を提出。 レポート課題（2）については2019年1月の課題提出締切日までに最終稿を提出。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材の精読と理解 30% 自らの論説の妥当性と説得力 30% 学術論文としての体裁、適切な引用がなされているか 20%
	平常評価・試験	20%	メール、manaba等を活用して、主体的に自らの疑問を解決することができたかどうかを問う試験を行う。 ただし、通年30コマのうち1/5以上欠席相当と判断した場合、成績評価は0～60点とする。また、追・再試験の受験資格は与えない。
履修者への要望	<p>基本教材に掲載されている作品は、なるべく多く繰り返し読むこと。レポート作成にあたっては、先行研究論文を国文学研究資料館のHPやCiNiなどのデータベースを用いて検索して読み、場合によっては公共図書館を活用し資料の入手につとめるなどして、多くの研究論文に目を通してほしい。そのうえで自分が気付いた「発見」を大切に立論し、客観的に論証できるように努めること。添削は何度でも受け、完成度の高いものを仕上げしてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 東郷克美・高橋広満編 教材名： 『〈異界〉文学を読む』（鼎書房，2017年2月）ISBN978-4-907282-29-5 2000円＋税
	〈異界〉をキーワードにして編まれた、15人の作家の短編小説が省略なく全編掲載で載っている。明治20年代から始まる明治期の文学作品、大正期、戦前・戦後の昭和の15編の短編小説を理解しやすいように解説も施され、先行研究リストも記載されている。
参考図書	『日本国語大辞典』（全13巻，小学館，2006年4月）などで、適宜、言葉の意味と用法を調べること。
履修上のポイント	日本近代文学を精緻に読みこなすために作品に多く触れてほしい。教材は優れた短編作品が厳選されているので、何度でも繰り返し読むこと。解説や参考文献リストも参照して理解を深める一助とすること。作品を精読し分析して問題を発見し、それをレポートで表現していくように助言と添削を受けるようにすることが履修上ポイントである。
レポート課題 1	教材に掲載されている泉鏡花、永井荷風、佐藤春夫、芥川龍之介、谷崎潤一郎、梶井基次郎の作品の中から1作品を選び、作品にこめられた〈異界〉の意味について2000字～3000字で論じなさい。 留意点： 作品は〈異界〉を通じて、何を表現したかったのかに留意すること。
レポート課題 2	教材に掲載されている夢野久作、江戸川乱歩、太宰治、萩原朔太郎、岡本かの子、井伏鱒二、中島敦、川端康成、井上靖の作品の中から1作品を選び、作品にこめられた〈異界〉の意味について3000字～4000字で論じなさい。 留意点： 作品は〈異界〉を通じて、何を表現したかったのか、また語り方にも留意すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 村上春樹 教材名： 『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫，2004年10月）ISBN4-16-750207-0 448円＋税
	戦中に青年期を過ごし、従軍経験を持ち、戦後数年してから作品を発表し始めた「第三の新人」と文学史上言われている吉行淳之介、小島信夫、安岡章太郎、庄野潤三などの小説をアメリカのプリンストン大学で村上春樹が講義した講義録をもとにした小説案内。
参考図書	安岡章太郎『ガラスの靴 悪い仲間』（講談社文芸文庫，2014年12月） 小島信夫『アメリカン・スクール』（新潮文庫，2008年1月） 庄野潤三『撫 静物 庄野潤三初期作品集』愛（講談社文芸文庫，2014年4月） 江藤淳『成熟と喪失 “母”の崩壊』（講談社文芸文庫，1993年10月）
履修上のポイント	日本現代文学を精緻に読みこなすために、作品に多く触れてほしい。教材は戦後（1949年）生まれの村上春樹が「戦後」社会を考えていくうえで、感受性の強い青年期を戦中に過ごし、応召され従軍経験を持つ第三の新人の描いた優れた短編作品に注目して厳選し、その作品の中核を分析している。教材は村上春樹がアメリカの大学院での講義が元になっている。村上春樹がなぜ彼らを選んだのか考察を加えつつ、3人の作家・作品の特徴を捉え、その作品が文学史に残っている意味を十分考察するように留意してほしい。
レポート課題 1	安岡章太郎、小島信夫、庄野潤三の作品から一つ選び、戦後社会においてこの作品の持つ意味を2000字～3000字で論じなさい。 留意点： この作品の持つ深層を彫り上げて捉えること。
レポート課題 2	教材で取りあげられている『ガラスの靴』『馬』『静物』から一つ選び、戦後社会においてこの作品の持つ意味を「アメリカ」との関係性を軸にして3000字～4000字で論じなさい。 留意点： 作中に出てくる〈アメリカの影〉をしっかりと捉えること。